

池間島の鳥

久貝 勝盛 (沖縄県立博物館)

Birds in Ikema Island, Northern part of Miyako Island,
the Ryukyu Archipelago.

Katsumori Kugai
(Okinawa Prefectural Museum)

宮古諸島の鳥に関しては久貝、山本(1981)等が文献資料の記録も含めて226種の鳥を記録している。しかし、池間島の鳥に関しては断片的ではあるが久貝(1979)の報告があるだけである。今回、これらの記録と沖縄環境分析センターが行った池間島鳥類調査(私信、1991)、宮古野鳥の会のこれまでの探鳥会調査記録、新聞報道等による迷鳥の記録、そして1977年8月~1995年3月までの筆者の調査結果を加味して池間島の鳥類をまとめてみた。

1 地理上の位置

九州から台湾までの約1,300キロメートルの間に大小80余の島々が弓状に並んでいる。この島々を南西諸島とよぶ。宮古諸島はその南側に位置し宮古諸島を中心に伊良部島、下地島、池間島、大神島、来間島、多良間島、水納島の8島よりなる。

池間島は宮古島の北端にある狩俣から北へ1.4キロメートルの所に位置する面積277平方キロメートルの馬蹄型の平坦な島である。1992年3月に池間大橋がかかり宮古本島とつながった。ここには宮古諸島唯一の湿原がある。

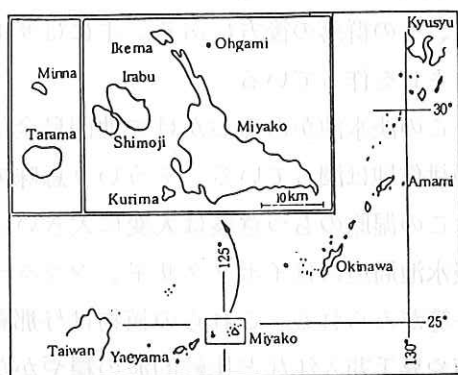


図1 宮古諸島の地図



2 池間島湿原

池間島の鳥を語る場合、池間島湿原を抜きにしては語れない。以前、この湿原は波静かな大きな入り江になっていたが1968年(昭和43年)の池間港浚渫工事の際、掘り起こされた土砂で入り江がせき止められてできた淡水池である。湿原全体の面積は約38ヘクタールで島の面積の約8分に1を占めるという。池は水面から陸地に向かってヒメガマ、フト

イ、イヌクログワイ、所々にオオサクラタデ、イヌタデ、サワズメノヒエの各群落がつながり、その後方にチガヤ、イボタクサギ、ギンゴウカン、モクマオ等の群落が連なる。そのちょっとした空間を利用して小さな畑がある。メインの畑は、その群落の後方にある。主にはサトウキビを作っている。

この淡水池があるおかげで池間島全体の耕作地は潤っている。そういう意味ではこの湿原のもつ意義は大変に大きい。淡水池周辺にはイボタクサギ、シマシラキ等がみられる。これらの植物は与那覇湾や嘉手苺入江など比較的波の穏やかな入江に見られる樹種である。これは、かつてこの一帯が入江であったという証拠になっている。この事は植生上、昔、その環境がどういう所であったかということがわかり、子供達にとっていい理科学習の場にもなっている。池の周辺部はイボタクサギが縁どり、それをオオハマボウが取り囲むようになっている。所々にアダン群落も見られる。

ここは鳥類にとって県下でも有数の貴重な水辺環境の一つである。特に秋、北方から越冬のために渡って来るガン・カモ類やサギ類は、その種類も多く湿原全体を賑やかにしている。宮古諸島では唯一の北方系の水鳥が見られる場所である。夏場は冬場のような賑やかさはないが、湿原を繁殖の場として利用するバン、カイツブリ、リュウキュウヨシゴイ、カルガモ等の活気溢れる姿を見る事が出来る。

なぜ、このように多くの鳥類が生活の場としてこの湿原を利用するのだろうか。それは豊かで、静かな環境があるからである。豊かな自然とは植物、昆虫、小動物、大型動物等あらゆるタイプの生物が共存している自然ということである。豊かな自然は鳥類にも外敵からの隠れ家や餌を保証する。静かな自然とは人間による無秩序な攪乱がないということである。

3 池間島の鳥類相

これまでの資料調査と今回の調査結果から籠抜けのベニスズメを加えて28科93種類の鳥を記録した。その内訳は留鳥13種（ベニスズメを除く）、渡り鳥79種（夏鳥3種、冬鳥25種、旅鳥38種、迷鳥13種）である。また、水鳥と山野の鳥の比率は58：34で約2：1である。これからすると、池間島是水鳥をメインにした渡り鳥主体の鳥相である。もう一つ大きな特徴として県下で記録されたほとんどの大型水鳥が出現しているという事である。これは池間島が湿原に依存した鳥相であるという事を裏づけるものである。

1993年6月、水辺環境を保護するためのラムサール条約会議が極東アジアで初めて北海道釧路で開かれた。この会議の目的はアジア諸国の条約への加盟促進と登録湿地の拡大を図るというものだった。今、世界的規模でマングローブ湿地や干潟を守ろうという運動が静かに起こっている。この池間島湿原も大事にしたい

水辺環境の一つである。

以下、留鳥及び渡り鳥の出現状況について述べる。

1) 留鳥

池間島で確認された留鳥としてはメジロ、スズメ、セッカ、ミフウズラ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、キジバト、オオクイナ、ヒクイナ、リュウキュウヨシゴイ、クロサギ、バン、カイツブリ、カルガモ等がある。宮古島では繁殖しないが池間島で繁殖が確認されている種としてカルガモがある。これは池間島湿原があるからである。リュウキュウヨシゴイもこの湿原を繁殖場所として利用している。この島で心配される鳥としてはミフウズラがあげられる。こういう地上性の鳥は面積の小さい島ではその生存が危ぶまれる。この事は宮古諸島全体にもあてはまる。以前は草原が彼らの生活の場であったが、だんだんと生息環境が狭められてきているからである。オオクイナは、どちらかというと薄暗い林を好むがそういう林も畑に変身してきている。なお、ミフウズラは奄美以南で見られる一属一種の貴重種である。オオクイナも宮古諸島を北限とする貴重種である。

2) 渡り鳥

サギ類：渡りのシーズンにはアマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ムラサキサギ、ヨシゴイ等が見られる。宮古島でムラサキサギやヨシゴイに

会うというのはめったにないが、ここでは出会う確率が高い。草原が少ないせいか、宮古島に比べてアマサギの数は極めて少ない。

シギ・チドリ類：入れ江になった干潟がないために少ない。ここではせいぜいクサシギ、アオアシシギ、キアシシギ、キョウジョシギ、イソシギ等が見られるくらいである。

ガンカモ類：湿原があるために県下で見られるガンカモ類のほとんどを見る事ができる。宮古野鳥の会によると、毎年湿原で飛来個体数が多いのはヒドリガモであるという。カルガモ、マガモ、ハシビロガモ、コガモ、オナガガモ等はごく普通に見られる。ときにはマガン、ヒシクイ、サカツラガン等もでる。県下でも、めったにみられないサンカノゴイやオオヨシゴイにも出会う。

ワシタカ類：サシバやアカハラダカ、チョウゲンボウ等は9月、10月の渡り時には、ごく普通に見られるがオオタカ、チュウヒ、ノスリ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、ハイイロチュウヒ等はごくまれに出現する。

3) 分布的に興味深い鳥類の記録

サンカノゴイ (サギ科)

Botaurus stellaris

本州中部部以北で繁殖し、関東以南で越冬する。池間島湿原には冬鳥として時々飛来する。全体が薄い黄褐色で、体中に黄色の模様が点在する。外敵が近づく

くちばしや首をのばして静止する。主な食べ物は魚類や両生類である。

クロツラヘラサギ (トキ科)

Platalea minor
朝鮮半島と中国の一部に分布する。全身白色でくちばしと脚が黒い。くちばしは名前が示す通りヘラ状である。個体数はきわめて少ない。県内でも迷鳥として那覇市の漫湖に姿を見せる。池間島湿原では1980年1月5日に記録された。宮古島の下地町与那覇湾や伊良部島の佐和田の入り江でも記録がある。池沼、水田、干潟の泥の中の小動物を食べる。

マガン(ガンカモ科)

Anser albifrons
シベリアで繁殖し一部は東北、北陸地方で越冬する。沖縄への飛来はごくまれである。池間島でも迷鳥である。1982年11月28日に記録された。全身褐色で成鳥はくちばしが桃褐色で根元が白い。池沼、水田、干潟等でみられ、地上で草や草の種子を食べる。
国指定天然記念物。

ヒシクイ (ガンカモ科)

Anser fabalis
シベリアで繁殖し日本では冬鳥として東北、北陸地方で見られる。沖縄への飛来は少ない。池間島湿原でも迷鳥である。1981年1月14日に記録された。全身褐色の大型のガンである。くちばしは

黒色で、先端部に黄色の帯がある。池沼、水田等でみられ、水草の実を食べる。国指定天然記念物。

サカツラガン (ガンカモ科)

Anser cygnoides
中国東北部で繁殖し日本でもまれな冬鳥である。沖縄でも数回の記録しかない。池間島湿原でもきわめてまれである。1991年12月31日、池間在住の伊良波氏によって記録された。全身赤褐色の大型のガンである。くちばしは黒色で、基部は白色。脚はオレンジ色である。池沼、水田、干潟等でみられる。

ツクシガモ (ガンカモ科)

Tadorna tadorna
ユーラシア大陸中央部で繁殖する。冬場はインドあたりへ移動する。体の大部分は白色で顔は光沢のある黒色である。胸から背にかけて赤褐色の帯がでる。くちばしは赤色である。内湾や干潟を好む。県内では迷鳥である。池間島湿原では1978年1月30日に記録された。

ミミカイツブリ (カイツブリ科)

Podiceps auritus
中国東北部で繁殖する。冬羽は頭から背、尾まで黒褐色である。下面は白色。全体的に白っぽく見える。夏羽は頭部と背を除くと赤褐色。海岸、池沼、河口等でみられる。まれに冬鳥として池間島湿原にも渡来する。

ムラサキサギ (サギ科)

Ardea purpurea

西表以南に繁殖する南方系の鳥である。雄は顔から首にかけて黒い線がでる。胸やわきなどに紫色の羽がある。くちばしと脚は黄色味がかかる。雌と幼鳥は全体的に黄褐色である。池沼、水田、湿地等で魚類、トカゲ類を食べる。沖縄本島では、たまに見られるが数はきわめて少ない。池間島湿原でも時々見られる。

アカガシラサギ

Ardeola bacchus

中国南部で繁殖し、冬場にはインドシナ半島あたりへ移動する。夏羽では頭と首が赤味がかかる。背は灰色である。冬羽は頭と首に黄褐色の縦斑が点在する。背は暗灰褐色。くちばしの先端部は黒色で基部は黄色。水田、沼、草地等で両生類、魚類を採る。県内でも迷鳥である。池間島湿原では1982年5月9日に記録された。

イジマムシクイ (ヒタキ亜科)

Phylloscopus ijimae

南方系の鳥で、伊豆諸島あたりに夏鳥として渡来する。県下では渡りの頃に見られるが数は少ない。頭、背、翼や尾の上面は暗緑色である。下面は薄い黄色である。眉の線は細くて長く黄色味のある白色。茂みの中を好み、なかなか姿を見せてくれない。池間島でもギンネム林でたまに見られる。国指定天然記念物。

オオタカ (ワシタカ科)

Accipiter gentilis

ユーラシア大陸で繁殖する。成鳥は頭から背、翼、尾の上面が黒色で眉斑の白色が目だつ。胸、腹などの下面は白く、灰黒色の横斑が点在する。若鳥は背面が褐色で、下面には黒褐色の縦斑がでる。尾には4本の黒い帯が出る。ハト類、ヒヨドリ類を空中で襲って食べる。県下でもなかなか見られないタカである。池間島でもまれにしか見られない迷鳥である。特殊鳥類。

チゴハヤブサ (ワシタカ科)

Falco subbuteo

ユーラシア大陸中央部から北部へかけて繁殖する。頭、背、翼の上面は灰黒色で、成鳥では胸から腹にかけて黒褐色の縦斑がある。また、すねから下尾筒にかけては赤褐色である。小鳥類を襲って食べる。宮古諸島で渡りの時期に最初に姿をみせるのがこのチゴハヤブサである。個体数は極めて少ない。

ハイイロチュウヒ (ワシタカ科)

Circus cyaneus

ユーラシア大陸の北部一帯で繁殖し、冬期にはインドあたりへ移動する。雄は頭、背、尾、翼の上面が薄い青味がかった灰色である。下面は白色である。翼の先端部は黒色。雌は全体が黒褐色で下面は淡い褐色である。湿原あたりで水辺の小動物、ネズミ類、小鳥類を捕らえる。県内

でも迷鳥である。池間島湿原では1979年11月23日に記録された。

List of the Birds in the Ikema Island
池間島鳥類目録

カイツブリ科 PODICIPITIDAE

- 1 カイツブリ *Podiceps ruficollis*
- 2 ミミカイツブリ *Podiceps auritus*

ウ科 PHALACROCORACIDAE

- 3 カワウ *Phalacrocorax carbo*
- 4 ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*

サギ科 ARDEIDAE

- 5 サンカノゴイ *Botaurus stellaris*
- 6 ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis*
- 7 オオヨシゴイ *Ixobrychus eurhythmus*
- 8 リュウキュウヨシゴイ *Ixobrychus cinnamomeus*
- 9 ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*
- 10 ササゴイ *Butorides striatus*
- 11 アカガシラサギ *Ardeola bacchus*
- 12 アマサギ *Bubulcus ibis*
- 13 ダイサギ *Egretta alba*
- 14 チュウサギ *Egretta intermedia*
- 15 コサギ *Egretta garzetta*
- 16 クロサギ *Egretta sacra*
- 17 アオサギ *Ardea cinerea*
- 18 ムラサキサギ *Ardea purpurea*

トキ科 THRESKIORNITHIDAE

- 19 クロツラヘラサギ *Platalea minor*

ガンカモ科 ANATIDAE

- 20 マガン *Anser albifrons*
- 21 ヒシクイ *Anser fabalis*
- 22 サカツラガン *Anser cygnoides*
- 23 ツクシガモ *Tadorna tadorna*
- 24 マガモ *Anas platyrhynchos*
- 25 カルガモ *Anas poecilorhyncha*
- 26 コガモ *Anas crecca*
- 27 ヒドリガモ *Anas penelope*
- 28 オナガガモ *Anas acuta*
- 29 シマアジ *Anas querquedula*
- 30 ハシビロガモ *Anas clypeata*
- 31 キンクロハジロ *Aythya fuligula*
- 32 スズガモ *Aythya marila*

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

- 33 ミサゴ *Pandion haliaetus*
- 34 オオタカ *Accipiter gentilis*
- 35 アカハラダカ *Accipiter soloensis*
- 36 ツミ *Accipiter gularis*
- 37 ノスリ *Butea butea*
- 38 サシバ *Butastur indicus*
- 39 ハイイロチュウヒ *Circus cyaneus*
- 40 チュウヒ *Circus aeruginosus*

ハヤブサ科 FALCONIDAE

- 41 ハヤブサ *Falco peregrinus*
- 42 チゴハヤブサ *Falco subbuteo*
- 43 チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

ミフウズラ科 TURNICIDAE

- 44 ミフウズラ *Turnix suscitator*

クイナ科 RALLIDAE

- 45 オオクイナ *Rallina eurizonoides*
 46 ヒクイナ *Porzana fusca*
 47 シロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus*
 48 バン *Gallinula chloropus*
 49 オオバン *Fulica atra*

チドリ科 CHARADRIIDAE

- 50 シロチドリ *Charadrius alexandrinus*
 51 ムナグロ *Pluvialis dominica*

シギ科 SCOLOPACIDAE

- 52 キョウジョシギ *Arenaria interpres*
 53 アオアシシギ *Tringa nebularia*
 54 クサシギ *Tringa ochropus*
 55 キアシシギ *Tringa brevipes*
 56 イソシギ *Tringa hypoleucos*
 57 タシギ *Gallinago gallinago*

セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE

- 58 セイタカシギ *Himantopus himantopus*

ヒレアシシギ科 PHALAROPODIDAE

- 59 アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus*

カモメ科 LARIDAE

- 60 ウミネコ *Larus crassirostris*
 61 ハジロクロハラアジサシ *Sterna leucoptera*
 62 ベニアジサシ *Sterna dougallii*
 63 エリグロアジサシ *Sterna sumatrana*
 64 コアジサシ *Sterna albifrons*
 65 クロアジサシ *Anous stolidus*

ハト科 COLUMBIDAE

- 66 キジバト *Streptopelia orientalis*

ホトトギス科 CUCULIDAE

- 67 ホトトギス *Cuculus poliocephalus*

カワセミ科 ALCEDINIDAE

- 68 アカショウビン *Halcyon coromanda*
 69 カワセミ *Alcedo atthis*

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

- 70 ツバメ *Hirundo rustica*
 71 リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica*
 72 イワツバメ *Delichon urbica*

セキレイ科 MOTACILLIDAE

- 73 キセキレイ *Motacilla cinerea*
 74 ハクセキレイ *Motacilla alba*
 75 ツメナガセキレイ *Motacilla flava*

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

- 76 ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

モズ科 LANIIDAE

- 77 アカモズ *Lanius cristatus*

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

- 78 イソヒヨドリ *Monticola solitarius*
 79 アカハラ *Turdus chrysolaus*
 80 シロハラ *Turdus pallidus*
 81 ウグイス *Cettia diphone*
 82 セッカ *Cisticola juncidis*
 83 イイジマムシクイ *Phylloscopus ijimae*

- 84 エゾビタキ *Muscicapa griseisticta*
 85 サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*
 86 ツグミ *Turdus naumanni*

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

- 87 メジロ *Zosterops japonica*

アトリ科 FRINGILLIDAE

- 88 アトリ *Fringilla montifringilla*

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

- 89 スズメ *Passer montanus*

ムクドリ科 STURNIDAE

- 90 コムクドリ *Sturnus philippensis*

- 91 ムクドリ *Sturnus cineraceus*

カラス科 CORVIDAE

- 92 ハシブトガラス *Carvus macrorhynchos*

カエデチョウ科

- 93 ベニスズメ *Amandava amandava*
 籠抜け

謝 辞

この報文作成に関しては県自然保護課の古謝隆氏に大変世話になった。また、宮古野鳥の会には、これまでの池間島探鳥会調査資料を使用させてもらった。心から感謝したい。

SUMMARY

- 1 The author has examined about

the birds in Ikema island from August, 1977 to March, 1995.

2 27 families and 93 species(including escapee) were recorded.

3 13 species were residents and 79 species were passage migrants.

4 The avifauna of Ikema island is primarily for passage migrants.

5 The water birds outnumbered the land birds by a ratio of two to one in Ikema island. Accordingly, the avifauna of this island is a type of depending on the Ikema marsh.

参考文献

池原貞雄監修 1991 いらぶの自然.

Katsumori Kugai 1977 The Birds of the Miyako Islands

沖生研究会誌 第10号.

久貝勝盛・山本晃 1981 宮古群島の鳥類目録 沖生研究会誌

第14号 P15~29.

平良市教育委員会 1979郷土の自然 P102

Wild Bird Society of Japan 1982 A

field guide to the Birds of Japan.